



平成22年10月12日

各位

上場会社名 デリカフーズ株式会社
 代表者 代表取締役社長 館本 勲武
 (コード番号 3392)
 問合せ先責任者 執行役員経営企画部長 田井中 俊行
 (TEL 03-3858-1037)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、22年5月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	230	210	114	7,784.23
今回発表予想(B)	10,000	80	70	36	2,458.18
増減額(B-A)	0	△150	△140	△78	
増減率(%)	0.0	△65.2	△66.7	△68.4	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	9,359	246	233	134	9,206.46

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,000	490	475	268	18,299.76
今回発表予想(B)	20,000	230	210	119	8,125.64
増減額(B-A)	0	△260	△265	△149	
増減率(%)	0.0	△53.1	△55.8	△55.6	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	18,515	476	453	240	16,455.75

修正の理由

営業利益、経常利益、当期純利益は、以下の理由により、前回発表予想を下回る見通しであります。

(1) 新工場稼働にともなう予想外の費用の発生

当社連結子会社の東京デリカフーズが6月より新工場を稼働させましたが、新工場は当社グループの中でも業界最大規模の工場であったため、当初の予想以上の経費が発生しました。顧客へ迷惑をかけないために旧工場の並行稼働を予定より延長して行なわざるをえなかったため、新工場の稼働率は当初の計画より低く、費用が増大し経常利益を圧迫しました。旧工場を閉鎖し、期待にこたえられる本格稼働になるには、来年3月になる予定です。

(2) 天候不順の影響

春先から初夏にかけての天候不順、6月後半からの記録的猛暑は、野菜の収穫高を減少させ、野菜価格の高騰を引き起こしました。従来であれば、天候不順であっても、その後の収穫高の安定化、野菜価格の平準化になりますが、今回の天候は想定外の天候であり、当社グループの経験を超えるものであります。そのような状況のなか、生産者の救済を優先した結果、当該仕入高の高騰が発生しました。この天候不順による価格高騰の影響は、引き続き年内は続くものと想定されます。

(3) 新規事業への投資費用の発生

当社連結子会社のデザイナーフーズが、野菜の中身(機能性)評価の研究開発を10年来続けてきましたが、日本で初めて野菜を機能性で販売する店「ベジマルシェ」を、本年8月に六本木アークヒルズにオープンしました。本来は12月オープン予定でしたが、お客様の要望により先行オープンいたしました。野菜の機能性のみならず一般食品の機能性まで表現して販売する店にして欲しいというお客様の要望から、野菜以外の分析に費用が掛かり、当初の予想外の分析経費が発生しました。「ベジマルシェ」については、情報発信基地、新しいビジネスモデルとして、積極的にB to C市場を事業展開していきます。

なお、売上高につきましては、連結子会社の東京デリカフーズ株式会社が6月より稼働させた新工場は、外食業界から大きな評価を得られ新規顧客獲得が増えております。新工場の稼働率についても軌道にのりつつある状況になってまいし

た。通期の売上高については、昨年同期比で約10%の売上増と前回発表予想通りとなる見通しです。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性があります。

以 上